

タイトル	研究発表
学校名	神奈川県立平塚中等教育学校
研究テーマ	『できる人ができることを』

【学校紹介】

神奈川県立平塚中等教育学校は、神奈川県で初めての公立中高一貫校として、2009年4月に開校しました。今年で17年目を迎え、現在12期生から17期生が在校しています。

6年間の一貫した教育課程や学習環境の中で、個性や創造性の伸長を図り、国際社会に対応できる幅広い教養と社会性・独創性を備えた人材の育成を目指しています。

【PTA本部について】

本部は、会長1名、副会長3名、書記2名、会計2名、会計監査2名で構成されています。

役員やグループメンバーは、毎年の意向調査を行い決めています。

各グループの人数は各学年2~3名を目安にしていますが、定員等は設けていません。

●教職員紹介「なみき道」の発行

早い段階で職員と新しいPTA役員を紹介するために、広報紙とは別に「なみき道」を発行しています。小学校を卒業し、入学したばかりの保護者の安心につながっています。

●翠星祭文化部門の活動

平塚中等PTAを知ってもらうため、在校生やその保護者だけでなく、小学生やその保護者への取り組みとして、顔出しパネルや神社の設置、校章入りの鉛筆やまんじゅうの販売、購買でのパン販売でもお世話になっている「サンメッセしんわ」とコラボした総菜パンの販売があります。

こうした活動は、保護者だけでなく地域の人々にも、平塚中等を知ってもらう大切な機会になっています。

●その他

- ・コロナ禍で膨れ上がった繰越金の対応および、PTA会費の使い方を見直し、月450円であった会費を250円に変更し、年間5,400円か3,000円へ会費の値下げに踏み切りました。

- ・PTAが任意団体であることを踏まえ、PTA規約に「入会の意思を示した者」の文言を加えるとともに、入会意向確認書を作成し、保護者のPTA入会意思の確認をすることを始めました。

- ・以前より検討していたPTA専用のWi-Fiの導入を実現し、来校しなくても役員会・委員会が開催できるようにしました。

- ・前期生の給食導入へ向けての試食会に本部役員・各グループメンバーで参加し、保護者としての要望や意見等をアンケートに回答しました。

以上のように、社会情勢に合わせて、保護者の負担を軽減しつつも、活動が継続できるように工夫しています。

●各グループの活動

広報グループ

年に2~3回、広報紙「翠星」を発行するのが主な活動です。

広報紙づくりは撮影、原稿作成、編集作業など工程が多く、大変なこともありますが、広報紙が完成した時の達成感はとても大きいです。

翠星祭体育部門・文化部門・合唱祭などの学校行事や学年ごとの行事のほか、保護者として知りたい情報を盛り込んだ紙面づくりをしています。

撮影、取材を通して、普段目にすることができない子どもたちの学校での姿を間近で見られることも活動の魅力の一つとなっています。

交流活動グループ

全学年の保護者を対象とした交流会の企画、同学年の保護者交流となるクラスや学年懇談会の企画、翠星祭体育部門の受付や、文化部門の販売お手伝いなど学校行事のサポートなどを中心に活動しています。

コロナ禍に始めた卒入学祝いの装飾も継続して行っています。

様々な活動を通して、グループ役員自身が楽しむことも大切にしています

交通安全グループ

生徒が安全に登校し、安心して学校生活を送れるよう、2つの活動に取り組んでいます。

①登校時の安全確保

毎年6月、11月には、学校周辺や駅での交通安全指導を行い、安全に登校できるよう支援しています。9月には、「神奈川県自転車商協同組合湘南支部・平塚第一支部」の皆さんのご協力のもと、後期生の自転車点検を実施し、安全に自転車通学ができるようサポートしています。

②制服リサイクル

秋の翠星祭文化部門で回収した制服を、翌年の春の授業参観で販売する取り組みです。6年間同じデザインの制服を着用する中高一貫校ならではの活動として、保護者からも好評をいただいています。

今後も先生方と連携しながら、生徒が周囲の安全にも目を向けられるよう、きめ細やかな支援を続けていきます。

【コロナ禍での活動】

2020年、コロナ禍で保護者が学校に来ることができなくなったため、各委員会を無くし、PTA本部8人のみでPTA活動を継続、最小限の活動を行いました。

2022年、コロナが落ち着き、PTA活動再開にあたり、一度なくなったものをゼロから再生させるのに、委員会という響きが固いので、活動内容に大きな変化はありませんが、みんなが参加しやすいように名称を委員会からグループに変更しました。

また学年やクラスの人数制限を設げず、グループ活動参加者を募るようになりました。

そのおかげか、現在も希望者のみで活動を継続することが出来ています。

【課題】

コロナ禍以降、学校行事の内容や保護者の関わり方が変わり、PTA活動の在り方も見直しを迫られました。

また「PTA加入は任意である」という認識が広まつたことで、若干ですが、未加入者という問題が新たに生じてきました。

保護者と学校が協力して、生徒が安全に楽しく学校生活が送れるようにサポートするため、PTAの活動はなくてはならないものです。

このままでは「誰がPTAを担っていくのか」という不安もあります。

【今後の取組み】

PTA サポーター制度

学校行事の際に来校した保護者が気軽に活動に参加できる仕組みです。短時間でも関わっていただくことで、参加のハードルを下げています。

保護者懇談会

吹奏楽部の演奏の鑑賞やOBとの懇談、部活動の見学会を実施して、幅広い学年の保護者同士がつながる機会を作りました。懇談会は久しぶりの開催となりましたが、参加者の皆さんにも大変好評でした。

県内全域から生徒が集まるため、地元との繋がりが少なく保護者も不安だからこそ、学年を超えた交流会などが必要だと改めて感じました。

【まとめ】

平塚中等PTAではコロナで行動制限がある中でも、いち早く委員会をグループにして活動を続けてきました。コロナ禍で、保護者が学校行事に参加する機会も減り、PTAに対する意識や保護者同士の関わり方も変化しました。

また、PTA加入は任意であることが周知され、PTAのあり方を改めて考えることになりました。

6年間を通しての教育が、子どもだけではなく、保護者の付き合いも幅広く、PTAに活かされていることが本校の強みです。

入学した1年生のうちから、上級生の保護者と交流できることによって、早い時期から6年間のイメージができ、長いスパンで子どもたちに寄り添ったサポートが出来ます。

今後も、変化する社会情勢の中で、私たち平塚中等PTAは、「できる人ができることを」という気持ちで支え合いながら、楽しく活動を続けていきたいと考えています。